

WEEKLY SIGNAL

平成30年12月21日(金) 1455号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	12/24(月)	12/25(火)	12/26(水)	12/27(木)	12/28(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券		△3,000	△3,000	△3,000	△1,000
財政他		△100	△1,000	△2,000	△6,000
資金需給		△3,100	△4,000	△5,000	△7,000
主な要因		国庫短期証券発行・償還(3M)			
オペ期日		共通担保(全店) 社債等買入 ETF買入	+ 5,500 + 800 + 2,500		
オペスタート	振替休日	共通担保(全店) CP等買入 社債等買入 国債補完供給	△3,100 △800 △100 + 200		
(日本)		企業向けサービス価格指数(11月) 営業毎旬報告(12/20現在) 日本銀行が保有する国債の銘柄別残高 日本銀行による国庫短期証券の 銘柄別買入額	金融政策決定会合議事要旨 (10月30・31日分) 基調的なインフレ率を 補足するための指標 黒田日銀総裁、講演 (経団連会合審議会)	製造業部門別投入・産出物物価指数 (11月)	金融政策決定会合における主な意見 (12月19・20日分) 完全失業率(11月) 有効求人倍率(11月) CPI(東京都区部、12月) 鉱工業生産(11月)
(海外)	米 シカゴ連銀活動指数(11月)	米 休場 英 休場	米 ケース・シラー住宅価格指数(10月)	米 FHFA住宅価格指数(10月) 米 新築住宅販売件数(11月) 米 消費者信頼感指数(12月)	

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、383兆3,100億円から始まり、国債大量償還(20日)を主に増加基調をたどり389兆6,200億円で越えた。無担保コールON物は、①積期序盤であること、②年末年始の連休を跨ぐポジション動向を見極めたい市場参加者が多かったこと等から、ビッドサイドの調達意欲が弱く軟調な地合いで推移した。加重平均金利は△0.067~△0.071%での推移となった。ターム物は年内エンドのショートタームを中心に運用ニーズが強く△0.05%を下回ってオファーする先も散見された。17日に日銀が公表した「業態別の日銀当座預金残高(11月)」によると、11月積期のマイナス金利適用残高は、マイナス金利政策導入以降で最小残高(169,310億円)となった。19・20日に行われた日銀金融政策決定会合では金融政策運営の現状維持を決定した。来週は、国内では、黒田日銀総裁講演(26日)、完全失業率、有効求人倍率(28日)、海外では、ケース・シラー住宅価格指数(26日)などが予定されている。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.015 ~ 0.000
TDB 3M	△0.25 ~ △0.15
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約1兆3,500億円で、週間償還額(約1兆1,500億円)から増加した。発行市場は、その他金融や石油業態の大型発行案件が連日オファーされ、活況であった。一方、年末を意識した残高調整の動きもあり、商社等の大型案件の期日償還が見られた。週末の発行残高は、先週末(20兆5,914億円)を上回り20兆7,000億円弱となった模様。発行レートは、引き続きディーラーの購入ニーズが強く、マイナスから0%近辺のレンジで変わらず。来週の償還総額は、月末日の大量償還(約2兆9,000億円)があり、4兆1,000億円程度となっている。四半期末を見据えた期日償還案件も多く、月末発行残は大幅に減少すると思われる。発行レートは、投資家・ディーラーの購入ニーズが引き続き強いことから、マイナス~0%近辺での出合い中心を予想する。25日に、CP等買入オペが2,000億円程度オファーされる予定。

<TDB>

19日入札の1Y803回債は、最高落札レート△0.1527%(前回債△0.1647%)、平均落札レート△0.1697%(同△0.1687%)となり前回債と概ね同水準。一方、21日入札の3M804回債は、最高落札レート△0.1751%(前回債△0.2010%)、平均落札レート△0.2053%(同△0.2125%)と前回債比較軟調な結果となった。週末のセカンダリー市場は新発1Y、3Mともに△0.18%程度の出合。1Yは入札水準より深いマイナス圏まで買われた一方、3Mの買いは限定的であった。来週は国庫短期証券の入札は予定されていない。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.20%近辺から始まり、週後半にかけて△0.10%台後半~△0.20%近辺で推移した。短期3Mの発行日となる25日受渡しは、前場△0.145%~△0.155%から出合いが付き始め、後場△0.11%近辺まで上昇した。SC取引では、10年351回債と352回債のbidが多く、351回債は概ね△0.20%台半ば~後半。352回債は△0.20%台前半~半ばが出合いの中心となった。その他2年393・394回債、5年135・136回債、10年340・341・342・344・345・346・347・349・350回債、20年164・165・166回債、30年58・59回債、40年11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。